

# 日本原水協活動交流ニュース

発行：原水爆禁止日本協議会 電話:03 - 5842 - 6031 2015年  
FAX:03 - 5842 - 6033 Eメール：antiatom55@hotmail.com 12月3日発行

## 年末被爆者を訪問し、結びつきを強めよう

★被爆70年をふまえ、益々大切となる被爆者援護の諸活動。被爆者の願いである核兵器廃絶の実現にむけた様々な諸取り組みを進めながら、被爆者を訪問し、結びつきを強めていきましょう。

### ちひろカレンダーとシクラメンをもって被爆者30人の訪問予定

笹原和典事務局長（熊本）

熊本県原水協では今年も昨年同様、ちひろカレンダーと鉢植えのシクラメンをもって30人の被爆者宅を訪問しようと計画中。訪問先は被団協の方から、お一人で生活をされている方などを中心に推薦してもらい一緒に届け、大変喜ばれています。熊本市内は4つ程度の組をつくり、市外は民医連の院所の皆さんが担当しています。こうした取り組みを通じて、被爆者の方の生活を原水協としても把握していきたいと考えています。

熊本では2世・3世の会が昨年からは県庁ロビーで原爆展を始め、今年からはお手伝いに出向いています。ノーモア・ヒバクシャ訴訟の第2次熊本訴訟は、昨年8人の被爆者が5人勝訴しましたが国は3人を控訴。敗訴原告の2人を含め5人が福岡高裁でたたかっています。12月7日が結審のため、県原水協としても支援ネットワークの構成団体として傍聴支援に行く予定です。



### 年末、みんなでついた餅(150キロ)を持参する訪問を今年も計画中！

梶本修史事務局長（兵庫）

毎年の年末には、1970年代以降40年以上続けている「反核平和の餅つき」をおこないます。朝10時頃から夕方4時頃まで2つの臼で150キロのお餅をつき続け、一緒に持って被爆者を訪問しています。

阪神大震災から20年経つが、当時6300人だった被爆者数が今年3698人。20年間で2700人も減っている数字に驚いています。原水協は当時、神戸に1200軒、芦屋市で200軒など、被爆者を戸別に訪問し、その時に信頼関係が作られた。現在基礎組織が25組織から17になり8つが解散。非常に強力で支援してきた姫路の会が今年になって高齢化のため解散したのはショック。総額70万円弱の募金を渡していますが、6・9行動、平和行進、年末に集めた募金は全部被爆者に渡します。

